

# ジョージ川口 と ビッグフォー・プラス・ワン の戦

本 亀 磨 (山陰放送アナウンサー)



## Member ジョージ川口 (ドラム)

過去数年ナンバーワン・ドラマーとしての地位を譲らないのは偉とすべきである。彼の足跡、即ち日本のジャズの歴史と言っても過言ではない程彼の日本ジャズ界につくした功績は大きい。

スピーディーなそして正確なパンチのあるリズムは彼の身上であり、複雑多岐なテクニックを縦横に組み合わせた、興奮的なソロ・ムードをかもし出す点他の追随を許さない。また彼の行く所必ず第一級のパートナーが集まることも有名で、不世出の名コンボ、松本英彦、中村八大、小野満、ジョージ川口のビッグフォアから、第二次ビッグフォア・プラス・ワン、現在第二次ビッグフォア・プラス・ワンと強力なサイド・メンを集めているが、これからも彼の実力と人柄がうかがい知れるものである。

## 林 鉄 雄 (トランペット)

我が国随一のモダン派トランペッター。マイルス・デヴィスばりの豊かな音色と素晴らしいテクニックは定評がある。沢田駿吾とダブルビーツから、ジョー竹内とファイブ・スターズに迎えられ、若手モダン・トランペッターのNo.1として人気・実力とも、とみに上昇して来たが、不幸不治の病「カリエス」におかされ再起不能とまでいわれたが、不屈の斗志と止みがたい音楽、トランペットへの情熱が見事に病魔を克服、奇跡のカムバックとなった。この超人的な斗病生活は広く万人の共感を呼び、KRTV(東京放送)の一時番組で紹介され、注目を集めた。快復後、ギブスをはめながらも、前と変らぬ冴えたテクニックとフィーリングを見せ、杉原淳とイースト・サウンズに入団活躍中、その実力と人柄を認めたジョージ川口の誘いで昨夏、ビッグフォア・プラス・ワンに迎えられた。ビッグ・コンボに入って益々その技にみがきがかかり押しも押されぬ人気トランペッターに成長した。

## 中 山 進 治 (アルト・サクソ、バリトン・サクソ)

今や渡辺貞夫に次ぐ人気と実力を有する、モダン若手プレーヤー。アルトと共にバリトンの実力も高く評価され、常に人気投票の上位にランクされている。彼の参加により、ビッグフォア・プラス・ワンはバラエティーに富み、先人、名テナーマン宮沢の穴を埋めて余りあるものである。彼のアルトとバリトンは男性的な逞ましいトーンで聴く人を魅了するが、反面ロマンチックなやさしさも美事に唱うテクニックは見事である。彼もねっからのモダニストで、一途にモダン・ジャズを探究している数少ないジャズ・メンで、上田剛とニュー・サウンズ吉本栄とバード・ランド・ファイブ、杉原淳とイースト・サウンズから今回ビッグフォア・プラス・ワンに迎えられたものである。

## 吉 場 常 雄 (ベース)

小野満、栗田八郎と共に我が国三六ベージストの一人、素晴らしいテクニックとダイナミックなソロプレイは定評があり、最近中山、林等若手プレーヤーとの協演で、益々ファイトをもやし確実なビートに円熟味さえ加わり、ナンバーワンの風格が増して来た。その円満な人柄と確実なプレイの故に、レイモンド・コンデとゲイセブテット、ジョージ川口とジックスレモンオールスターズ、鈴木章治とリズムエース、ジックスジョージとジャズ界の名門を通り、幾多の有能なベース・プレーヤーを育てた一事をみても、その実力の程はうかがい知れる。ビッグ4+1に不可欠のメンバーのため、ジョージ川口に請われ、今やジョージの片腕として活躍している。

## 洪 谷 毅 (ピアノ)

昭和14年生れ、芸大作曲科に在籍中の異色ピアニストである。沢田駿吾トリオに在籍中その非凡な才能をジョージ川口に認められ昨年ビッグ4+1に参加した。若手ながらも彼のリズム感溢れるテクニックとモダンなタッチは抜群で、ジョージ林、中山等のモダンの名手とプレイ出来ることは幸せと言うべきで、その豊かな天分と、先輩連の好指導と相俟って大いに将来を楽しめるピアニストである。